

迎古夢旅 4596 : **イベリア半島・聖堂との出会い P135**



イベリア半島は、石と土の文化。日本は、木と緑の文化。

欧州大陸は、石と岩、鋭角の山が多い。典型的なのは、スイスやイタリア。

ふと、**2017年3月、函館から京都までのママチャリ、ひとり旅。**

山形県山形市、立石寺（通称・**山寺**）を思い出した。

奥の細道、登り口に、芭蕉と曾良の像がある。勿論、頂上にて、絶景を楽しみ、画像記録。

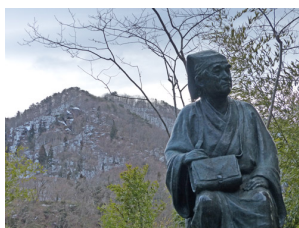
しづか 閑さや いわ 巖にしみ入 せみ 蟬の聲

イベリア半島、この地でも、**静寂と絶景**を楽しんだのは、言うまでもない。

生きるというのは、苦しい試練も、多いということ。

神に祈るのは**世界共通**。素直な心でこの地を訪ねられたことに感謝。

このひとり旅も、新型コロナ後の世界も厳しそう。強い心と情熱で、今に全力投球するのみ。



閑さや 巖にしみ入 蟬の聲
しづかや いわにしみいる せみのこゑ
元禄二年（一六八七）おくのほそ
道をたどり、山寺をおとすれた松尾
芭蕉の句で、門人たちが享永六年
（一八五三）にたてた句碑である。

